

南区地域福祉アクションプラン推進委員会 第2回障がい福祉分科会作業シート①

現計画における 目標(標題)	福祉分野別地域福祉活動計画	相談しやすい体制づくり
	地域福祉計画	福祉サービス利用の相談支援体制充実

① 第1回分科会で挙げられた目標達成度合い・現状・課題及びその要因

達成度・現状・課題	要因
<ul style="list-style-type: none"> ・相談体制は充実してきたと感じる。事業所や福祉団体の交流を通して情報交換ができています。 ・事業所としての周知が不足していた。 ・事業所間の連携がとれていない。(ちょっとした相談でも区内の事業所で受けられるものもある。) ・いま通学している生徒は、学校から相談できる情報を教えられているが、以前卒業した障がい者や在宅でサービスを利用している者は、相談できる情報をもっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事業所(施設)間の連携不足(相談事業所でなくても相談できる。) ○事業所としての周知が不足している。 ○特別支援学校の生徒には、情報が入ってくるが、支援学級や在宅の障がい者には情報が入らない。 ○相談事業所の経営面からのマンパワー不足、事業者不足 ○公的窓口の手話通訳不在

② ①の課題を解決するための活動主体及び取り組み・方向性

主体	取り組み・方向性
地域住民・団体等	<ul style="list-style-type: none"> ○育成会には情報交換の場があるので、入会の啓発をしていく。 ○区だよりなどの活用 ○福祉新聞の創設(障がい分科会だけではなく、他の福祉分科会と協働で情報誌作成)
社協・福祉事業者等	<ul style="list-style-type: none"> ○区だよりなどの活用 ○障がい者雇用に対する事業所への周知 ○自立支援協議会の活用 ○小中学校の支援学級に対する情報提供(教育サイドと福祉サイドの連携)
行政(区役所)	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の支援学級に対する情報提供(教育サイドと福祉サイドの連携)

③ 目標(細目)の再設定

現計画(福祉分野別地域福祉活動計画)における目標(細目)	次期計画における目標(細目)(案)
(活動) 相談体制の充実を図る	

④ 目標(標題)の再設定

次期計画における目標(標題)	
----------------	--

南区地域福祉アクションプラン推進委員会 第2回障がい福祉分科会作業シート②

現計画における 目標(標題)	福祉分野別地域福祉活動計画	障がいのある人と地域の人々との交流
	地域福祉計画	

① 第1回分科会で挙げられた目標達成度合い・現状・課題及びその要因

達成度・現状・課題	要因
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉団体では昼食会などで交流を持つことはあっても地域の中では交流はない。 ・ふれジョブでは一般企業などとの交流はある。 ・この推進委員会でコーヒーのサービスがあったので、わいわいカフェの事業について知ることができたが、この事業を発展させるには食材を障がい者が仕入れに行くことで農家などとの交流ができる。 ・月瀉地区では「梨の里(精神障がい関係施設)」利用者が近くの果樹農家で手伝いをする中で交流しているし、移動販売車と一緒に販売をしながら地域と交流している。 ・イベントなどに「出張わいわいカフェ」ができないか。待っているだけでなく出向く姿勢が必要 ・イベント会場での手話ができるコミュニケーション手段が必要 ・知的障がい児の育った地域では周囲の子ども達は受け入れていたが、世間に出ると奇異の目で見られた。また、一般のサークルには入れなかったが、入れておけば理解にされたのかも ・世間では意外と知的障がいを奇異として見ていないが、案外家族が心配している場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉団体間では昼食会など交流はあるが、地域の中での交流はない。 ○社会での障がい者への対応に不安(地元では受け入れられている。)社会へ出てからの雇用 ○特別支援学校や施設利用者は地域(区)以外で通学、利用しているため地域とのつながりが薄い ○障がい者が自宅や施設から社会に出ることそれに対応する出られる環境整備(買い物や遊ぶところ(中心部)で障がい者用手洗い、スペースが狭い。) ○イベントなどでの手話通訳の不足

② ①の課題を解決するための活動主体及び取り組み・方向性

主体	取り組み・方向性
地域住民・団体等	<ul style="list-style-type: none"> ○わいわいカフェなど食材を地域に求めて交流できるのでは？また出張して地域でわいわいカフェができるのでは？ ○障がい者(家族を含む)のサークルづくり ○南区は農業が盛んなので、障がい者の雇用に行政に関わってもらいたい。 ○アグリパークは健常者が働いているので、その中でバザー等の交流ができれば良い。また農業体験すれば良い。☞ 行政にお願いします。 ○地域(自治会、町内会単位)にまで障がい者活動情報が伝えるようにする。(当たり前ラジオ体操や子ども会に参加できれば良い。 ○心のバリアフリー(障がいへの理解) ○地域のまつりやイベントへの積極的な参加
社協・福祉事業者等	<ul style="list-style-type: none"> ○わいわいカフェなど食材を地域に求めて交流できるのでは？また出張して地域でわいわいカフェができるのでは？
行政(区役所)	<ul style="list-style-type: none"> ○南区は農業が盛んなので、障がい者の雇用に行政に関わってもらいたい。 ○アグリパークは健常者が働いているので、その中でバザー等の交流ができれば良い。また農業体験すれば良い。☞ 行政にお願いします。

③ 目標(細目)の再設定

現計画(福祉分野別地域福祉活動計画)における目標(細目)	次期計画における目標(細目)(案)
(活動)互いに助けあい, 障がいがあっても普通に暮らす地域づくり (活動)地域単位で障がいのある人や家族を理解する活動を行う	

④ 目標(標題)の再設定

次期計画における目標(標題)	

南区地域福祉アクションプラン推進委員会 第2回障がい福祉分科会作業シート③

現計画における 目標(標題)	福祉分野別地域福祉活動計画	わかりやすい福祉情報マップ作りづくり
	地域福祉計画	

① 第1回分科会で挙げられた目標達成度合い・現状・課題及びその要因

達成度・現状・課題	要因
<p>・事務局から…この事業は来年度完成予定のため継続になる。</p> <p>・マップ作りの情報を収集しているが、いろいろと問題が生じている。行政に相談したい。</p> <p>・地域福祉計画作成時にマップ作りの共同製作の話が行政からされたが、その後その話は途絶えている。</p>	<p>○団体(個人)だけでは限界があり対処できなくなっている。</p>

② ①の課題を解決するための活動主体及び取り組み・方向性

主体	取り組み・方向性
地域住民・団体等	<p>○行政に施設等の情報提供してもらおう。</p> <p>○地域限定ではなく、区全体の情報マップづくり</p> <p>○商業施設で手話通訳や筆談が一目でわかるマーク等をつけてもらおう。</p> <p>○障がい者が使いやすいレストラン、施設、理美容店の表示</p>
社協・福祉事業者等	
行政(区役所)	<p>○行政に施設等の情報提供してもらおう。</p>

③ 目標(細目)の再設定

現計画(福祉分野別地域福祉活動計画)における目標(細目)	次期計画における目標(細目)(案)
(活動)わかりやすく情報が得られるため地域単位で活用できる福祉情報マップをつくらう！	

④ 目標(標題)の再設定

次期計画における 目標(標題)	
--------------------	--

南区地域福祉アクションプラン推進委員会 第2回障がい福祉分科会作業シート④

現計画における 目標(標題)	福祉分野別地域福祉活動計画	障がい者団体の交流活動
	地域福祉計画	

① 第1回分科会で挙げられた目標達成度合い・現状・課題及びその要因

達成度・現状・課題	要因
<p>・農家の高齢化に伴う後継者不足と障がい者の雇用をむすびつけられないか。 ・保育園では収穫の喜びを知る体験事業を行っている。 ・国が第6次産業の推進を掲げているので、生産から製品化まで資金の調達も考えられるのかも。ただし安心安全管理など課題もあるので行政の協力が必要</p>	<p>○障がいにより(精神, 知的)交流が難しい団体もある。</p>

② ①の課題を解決するための活動主体及び取り組み・方向性

主体	取り組み・方向性
地域住民・団体等	<p>○団体間の今ある交流は継続していく。 ○レストランパル(あけぼの, 梨の里) ○施設内の行事(毎年同じ内容, 演者も同じだけど, 前に経験しているから安心する。)・・・声かけ(誘い)が大事 ○連絡協議会の設置が必要かどうか検討する。</p>
社協・福祉事業者等	<p>○連絡協議会の設置が必要かどうか検討する。 ○施設内の行事(毎年同じ内容, 演者も同じだけど, 前に経験しているから安心する。)・・・声かけ(誘い)が大事</p>
行政(区役所)	<p>○連絡協議会の設置が必要かどうか検討する。</p>

③ 目標(細目)の再設定

現計画(福祉分野別地域福祉活動計画)における目標(細目)	次期計画における目標(細目)(案)
<p>(活動)区内の障がい者団体が一緒に活動する機会をつくる (活動)障がいのある人からの声が地域に届き, 住民と話し合いのできる場をつくる</p>	

④ 目標(標題)の再設定

次期計画における 目標(標題)	
--------------------	--

南区地域福祉アクションプラン推進委員会 第2回障がい福祉分科会作業シート⑤

現計画における 目標(標題)	福祉分野別地域福祉活動計画	
	地域福祉計画	心の健康づくりとボランティアの育成

① 第1回分科会で挙げられた目標達成度合い・現状・課題及びその要因

達成度・現状・課題	要因
<ul style="list-style-type: none"> ・学生時代にボランティアに参加していた人が社会人になってからがつかない。 ・大型店に手話通訳があれば良い。 ・福祉施設や利用者は常に新鮮さを求めている。ボランティアの訪問を待っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今の若い世代は個人的な活動を好む…核家族化が進み社会的な流れ⇒ボランティア活動への関心が薄れている。

② ①の課題を解決するための活動主体及び取り組み・方向性

主体	取り組み・方向性
地域住民・団体等	○スーパーなど大型店にボランティアが配置されていれば利用しやすくなる。
社協・福祉事業者等	<ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉協議会でのボランティアが活動中 ○社会福祉協議会でボランティア養成講座実施中(入門コース, 体験コース, 最近は傾聴コース)…若い人が受講していない。次につながらない。 ○スーパーなど大型店にボランティアが配置されていれば利用しやすくなる。 ○現計画では精神障がい者を対象とした「心の健康づくり講座」によるボランティアの養成としているが, 新計画では障がい者全体のボランティアとして捉えていく。 ○社会福祉協議会でもボランティア講座の内容が社会や要求課題に沿っているか模索中
行政(区役所)	<ul style="list-style-type: none"> ○スーパーなど大型店にボランティアが配置されていれば利用しやすくなる。 ○学校のカリキュラムにボランティアの心の醸成科目があれば良い

③ 目標(細目)の再設定

現計画(福祉分野別地域福祉活動計画)における目標(細目)	次期計画における目標(細目)(案)

④ 目標(標題)の再設定

次期計画における目標(標題)	

南区地域福祉アクションプラン推進委員会 第2回障がい福祉分科会作業シート⑥

現計画における 目標(標題)	福祉分野別地域福祉活動計画	
	地域福祉計画	障がい者団体情報の地域発信と地域との交流

① 第1回分科会で挙げられた目標達成度合い・現状・課題及びその要因

達成度・現状・課題	要因
<ul style="list-style-type: none"> ・団体の回覧版の配布をお願いできたのは地元と実家の自治会だけだった。地域とのつながりが無いと発信できない。努力が大事なのかな ・情報発信は文書が良い。 ・クリスマス会などもっと宣伝した方が良い。JAは会員、準会員に事業の予告を配布している。(その裏面には地域の情報が記載されている。) ・通勤通学バスの広告掲載に情報スペースを設置できないか。広告料がかかるなら区バスではどうか。(モデル事業として) 	○イベントへの参加と活用方法

② ①の課題を解決するための活動主体及び取り組み・方向性

主体	取り組み・方向性
地域住民・団体等	<ul style="list-style-type: none"> ○区バス(運転席の後部の掲示場所)の利用(市の後援事業の場合無料) ○育成会事業(ミュージックフェア・バザー・フリーマーケット)に一般や乳幼児(親)にも参加や物品提供募集の情報発信していく☞交流にもつながる。 ○自立や収益性を考えず、とりあえずは健常者も障がい者も一緒に楽しめる交流を目指す。 ○FM新津のスポット放送の検討
社協・福祉事業者等	<ul style="list-style-type: none"> ○育成会事業(ミュージックフェア・バザー・フリーマーケット)に一般や乳幼児(親)にも参加や物品提供募集の情報発信していく☞交流にもつながる。 ○自立や収益性を考えず、とりあえずは健常者も障がい者も一緒に楽しめる交流を目指す。
行政(区役所)	○区バス(運転席の後部の掲示場所)の利用(市の後援事業の場合無料)

③ 目標(細目)の再設定

現計画(福祉分野別地域福祉活動計画)における目標(細目)	次期計画における目標(細目)(案)

④ 目標(標題)の再設定

次期計画における目標(標題)	

南区地域福祉アクションプラン推進委員会 第2回障がい福祉分科会作業シート⑦

現計画における 目標(標題)	福祉分野別地域福祉活動計画	
	地域福祉計画	生活課題の早期発見

① 第1回分科会で挙げられた目標達成度合い・現状・課題及びその要因

達成度・現状・課題	要因
<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から…地域自立支援者協議会で処遇困難ケースや地域課題を協議している。 ・民生委員としては「付かず離れず困った時は家族以上に」で積極的に特定者に入れない。 	<p>○農村部では基本は「自助」であり「公助」もあるが「共助」までは難しい。「SOS」が出れば地域包括、行政が入れる。「SOS」が早めに出れば早期発見が可能になる。</p>

② ①の課題を解決するための活動主体及び取り組み・方向性

主体	取り組み・方向性
地域住民・団体等	
社協・福祉事業者等	○障がい者自立支援協議会の連絡体制を確立しながら課題の早期対応をしていく。
行政(区役所)	○障がい者自立支援協議会の連絡体制を確立しながら課題の早期対応をしていく。

③ 目標(細目)の再設定

現計画(福祉分野別地域福祉活動計画)における目標(細目)	次期計画における目標(細目)(案)

④ 目標(標題)の再設定

次期計画における目標(標題)	

南区地域福祉アクションプラン推進委員会
第2回 高齢者福祉・介護者支援 分科会経過報告

(1) 閉じこもりや孤立の防止	
計画／目標	委員意見等
① 高齢者の閉じこもりや孤立を防ぐ	<p>◎高齢者の閉じこもり防止に、お茶の間のような地域に出る場所が大切な働きをはたしており、継続の取組が必要</p> <p>課題としては、男性の参加が少ないこと、開設当時の参加者が高齢化してやめていく中で参加者の維持、また支えるボランティアの確保、開設運営のためのリーダー確保。参加しない原因としては、世代間の価値観相違、仕事・農作業による多忙、敬老会にはまだ入れないという声がかかる。また、要支援・介護、障がいのある方、子供等、だれでも来られる場も望まれる。課題を見直ししつつ継続が必要。</p>
⑨ 高齢者の見守り	<p>一人暮らし等の高齢者が急に体調を崩した場合等に備え、近所での支援方法検討が必要となっている。例として、近所でのゴミだし支援。</p>
⑩ 公共交通機関が発達していない	<p>公共交通機関がないため自家用車に乗れない場合、買い物、行事参加等に不便であり、活動範囲が制限されてしまう。</p>
④ 老人クラブの活性化/老人クラブへの参加促進	<p>◎男女とも多くの加入を推進するという点においては、現状では達成できていないが、老人クラブへの加入により社会参加でき、健康寿命の延伸等に効果があることから、今後も継続が必要。</p> <p>「地域福祉計画 老人クラブへの参加促進」と統合予定</p> <p>音頭を取る人がいなく、地域で集まる機会も減ってきている現状。参加者が減少している中、会員以外も参加可能なイベントを設ける等の勧誘方法の工夫、活性化させるためのリーダーの存在が必要。</p>
<p>要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの干渉を嫌うとか地域の高齢者の様子を知らないという現状 ・隣近所の様子が気になっても、どのレベルになったら、どこに連絡していいのかの判断が難しい。 ・隣近所に自分からお願いできるといいのだけれど、そういう状況にない地域が多い。 ・アパートや新興住宅地では、人の出入りが多く住んでいる方の把握も難しい。 ・高齢者の運転免許返納後に、1万円の補助制度があるが、1度きり。返納後長期にわたって安心して暮らせる制度がない。 ・老人クラブは全国的に減っているようだが、若い人でも仲間と交流する機会が少ない傾向がある。 ・行事を率先してやる人がいなくなった。 ・老人クラブのPR不足。 	

取組・方向性

地域

- ・地域でゴミだし支援制度などを利用して、見守りを行い、心配な方については、包括へつなぐような取り組みができるのでは。
- ・隣近所へ声掛けがしやすい地域づくり。
- ・敬老会や健診の参加について保健会等でまわる機会を、見守りに活かせるのではないか。
- ・介護サービス等公的なサービスやシルバー人材センターの利用までの手続きの間、必要となった時点で、すぐに手助けできるような取り組み
- ・老人クラブへ、若手の賛助会員から参加してもらい機会があると、年をとったら会員になり、リーダーもやれるようになるのでは。また、誘う側、誘われる側の立場によって感覚のずれがあるため、対等な立場で参加できるシステムがあってもよいのでは。
- ・老人クラブのPR方法の検討。会員のみへの広報が多いが、会員外の地域の方へも広報誌等を発行する。わかりやすい内容で。
- ・老人クラブの加入は仲間同士での声掛けも大事ではないか。
- ・老人クラブのメリットを示せる方法や、参加者にあった活動を検討できると良いのでは。
- ・世代間交流の実施や仲間づくりも必要ではないか。

社協・福祉事業者等

- ・交流活動の場所提供や、啓発活動

(2) 地域での交流, 支え合いの推進	
計画／目標	委員意見等
② 介護者を支えあう地域	<p>◎介護者を地域で支えあうことは、今後さらに重要になると思われ、継続の取組が必要。</p> <p>介護者のための教室は多く開催されているが、周知不足もあり、参加者の少ない点が課題。また、開催団体ごとの連携がないために開催日に重なりがみられること、区域が広いため居住地によっては参加が難しいこと等から、必要な介護者に支援が行き届かない可能性あり。同居世帯の減少や、子供の世話になるのを好まない風潮、男性介護者では未経験の家事も負担となり得ることも考慮が必要。</p>
⑤ 情報の共有とネットワークづくり	<p>◎ネットワーク作りに引き続き取り組む。包括支援センターの活動について、必要な年代への情報周知が必要。</p> <p>包括で高齢者ケア会議を開催し、問題点は区の地域ケア会議に挙げ区全体として取り組むよう前進中。役員以外の地域の方へ包括支援センターの周知が不十分であり、必要な年代に活動が知られていない現状があるため取り組みが必要。地域によっては、総会等の集会前に説明会を開催し周知を図っている。</p>
⑧ 世代間交流事業の推進	<p>◎世代間交流事業は、高齢者と子供のみではなく中間世代も含め継続が必要。</p> <p>地域により頻度に違いがあるが、茶の間や敬老会で子供たちと交流が行われ、地域の祭りも世代間交流の場となっている。中間世代との交流機会が少ない傾向にある。</p>
<p>要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域でどの方が寝たきりとかの情報が少なく、支え合いが難しい。 ・敬老会の案内を持って1件1件回っていくと、介護で困っている人がいることがわかり、情報収集がたりないと感じる。包括等の制度を知っているかも心配。 	
<p>取組・方向性</p> <p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、包括、ケアマネで情報のやり取りができることが必要。コミ協内で、何かあった時に地域で協力できる方をまとめたネットワークを作ることも必要では。 ・家庭で介護をしていて、外に出られない方へのサポートも必要。 ・個人情報保護の観点から、要援護者名簿を地域に公開することはできないため、地域で支えが必要な方の把握ができるとよい。 ・回覧板を回す際の声掛け、お節を配る際等に支え合いの話を行う等、声掛けの機会をいかに。 ・保健会で敬老会の出欠や、健診の案内で回る地域は、その機会も声掛けにいかにさせるのではないかと。 	

社協・福祉事業者等

- ・ケアマネから民生委員・保健師・家族への報告を確実にしていく。
- ・社協の緊急情報キットの利用。ケアマネの訪問時にも確認を行う。
- ・家庭で介護をされていて、外に出られない方へのサポートも必要。

行政

・新聞販売店，牛乳販売店，ガス業者等に見守りの協力依頼をしていると思うが，配達員まで協力依頼がとどいていないようで，状況の変化に気づいても届けていいか悩んでいる方がいる。配達員に躊躇なく連絡をいれてもらえるように行政側から再度案内が必要ではないか。

- ・家庭で介護をされていて，外に出られない方へもサポートも必要。

・コミ協，お茶の間，公民館などで様々なイベントを行っているが，参加者の偏りや減少がみられるため，内容を整理し，統合できると世代間交流の機会となるのではないか。例として出張お茶の間など。

・老人クラブなどの将棋，囲碁等の特技を持った方から，子供へ教えてもらうよう，公民館等の事業に取り込めると世代間交流につながるのではないか。

- ・個人情報保護の勉強会（地域向け）

(3) 健康づくり, 介護予防の推進	
計画/目標	委員意見等
③ 認知症の理解を深める/認知症予防と対策	<p>◎認知症の理解を深めることは、今後も拡充して継続。また、認知症といえる地域づくりも大切。</p> <p>認知症についての説明機会が茶の間等となっており、対象者が高齢者に偏りがちである。40～60代にも説明機会を設け包括支援センター等について知識をつけてもらうこと、子供にも地域で触れ合う機会を作ることが必要。認知症サポーター終了者の地域での活躍方法やセーフティーネットの作成も今後の検討課題。また、認知症の方を家庭に閉じ込めると悪化がみられること、地域に予め周知されていると保護しやすいことから、認知症といえる地域づくりが必要とされる。</p>
⑥ 高齢者の健康管理と介護予防の推進	<p>◎高齢者の健康づくりに継続して取り組む。</p> <p>市内他区と比較し、高齢者の特定健診、後期高齢者の健診受診率が最低、運動習慣も最少となっているため、健診受診率を高め健康管理につなげることが必要である。地域でのウォーキングイベントや区での健康づくり講座が行われているが、イベント等を行いながらも日常生活の中で継続できる運動習慣の習得が健康寿命を延ばすために必要となっている。</p>
⑦ 地区保健会活動の推進	<p>◎保健会の存続は今後も必要であり、活動内容を整理し継続して取り組む。</p> <p>会費は納めるが委員を出さない自治会があり、保健推進員の減少が課題となっており、自治会、コミ協と連携した活動が必要。また、南区の運動習慣、喫煙、飲酒状況を市内比較すると生活習慣病の増加が危惧され、取り組みが必要とされる。</p> <p>「福祉計画 高齢者の健康管理と介護予防の推進」と次回目標制定時に絡められるか検討。</p>
<p>要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症は今後増加すると考えられ、病院で受け入れられる人数も限られているため、地域で見えないといけない方が増えると思われる。 	
<p>取組・方向性</p> <p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自治会で包括支援センターから認知症などについて説明してもらう機会をつくる。これから介護するであろう方も参加可能な方法の検討。保健会で認知症についての講演会を企画している地域もある。 ・少子化の中、子供のラジオ体操への参加など、健康づくりとあわせて世代間交流もできる取り組みの開催。 ・各地区でウォーキングイベント等を開催しているが、イベントの間を埋める形で継続できる運動があるといい。小さいグループでは歩いているとも聞く。無理せずに続けられる活動ができるといい。 	

・運動以外にも食事の面からの健康づくりも必要であり，保健会，食推，運推の地域での活動。コミ協，自治会と協力して保健会活動の継続

社協・福祉事業者等

- ・圏域会議で認知症の講習会を開催
- ・関係者の集まる会として地域医療連携のネットワークを開催

行政

- ・認知症サポーター育成事業
- ・認知症家族のつどい
- ・高齢ますます元気教室
- ・包括支援センターのPR

南区地域福祉アクションプラン推進委員会 第2回児童・子育て支援分科会作業シート ①

現計画における 目標(標題)	福祉分野別地域福祉活動計画	子育て世帯が孤立しないまちづくり
	地域福祉計画	子育て情報の発信

① 第1回分科会で挙げられた目標達成度合い・現状・課題及びその要因

達成度・現状・課題	要因
<ul style="list-style-type: none"> ・児童館や支援センターに育児情報(チラシ・パンフレット等)があっても、子どもに気を取られて見る余裕がない。 ・児童館等に来たくても来られないお母さんもいる。(性格的/地理的問題) ・サークルなどに入っていないと情報が入りにくい。口コミは重要。 ・スーパーマーケット、銀行等、どのお母さんも必ず行くところで情報提供したらどうか。 ・インターネットの情報は、何か目的がないと積極的には見ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地によって母親の行動範囲はおおよそ限定されてしまう。 ・母親同士のつながりが重要。 → つながりができるかどうかは、母親の意識の問題もある。 → 人付き合いの苦手な人もいる。

② ①の課題を解決するための活動主体及び取り組み・方向性

主体	取り組み・方向性
地域住民・団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・口コミが大事。絵本の会に若い人に入ってもらい、よい効果が出ている。 ・焦ってもよくないが、ずっと声をかけ続けて集まりに参加してもらった例もある。民生委員やリーダーになる人が常にアンテナを張っていることが大事。 ・地域の方からも情報提供してもらえるとありがたい。
社協・福祉事業者等	<ul style="list-style-type: none"> ・当該地区だけでなく他地区の児童館などでも活動紹介があるとよい。 ・ほかの母親より、児童館や支援センターの職員など少し上の年代の方から声をかけてもらう方が入りやすいのかも。
行政(区役所)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供には冊子やチラシの陳列よりも「声かけ」が有効。訴求力の強いポスターは目に入るのので、資料を持ち帰って見たり後で調べたりする。 ・「〇歳向け」等の表示があると分かりやすい。 ・訪問する助産師さんに子育てサークルのチラシ等を持って行ってもらえないか？

③ 目標(細目)の再設定

現計画(福祉分野別地域福祉活動計画)における目標(細目)	次期計画における目標(細目)(案)
<ul style="list-style-type: none"> ◎子育て中の親の不安・孤立感を和らげることができる ◎子育ての仲間づくり活動のある地域に 	

④ 目標(標題)の再設定

次期計画における 目標(標題)	
--------------------	--

南区地域福祉アクションプラン推進委員会 第2回児童・子育て支援分科会作業シート ②

現計画における 目標(標題)	福祉分野別地域福祉活動計画	ゆとりをもって子育てができるまち 地域ぐるみで子育て支援
	地域福祉計画	子育て応援ボランティアの育成と親のニーズ

① 第1回分科会で挙げられた目標達成度合い・現状・課題及びその要因

達成度・現状・課題	要因
<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポートセンターの存在を必要に迫られて初めて知った。使う機会がない人には知名度が低い。PR方法に工夫が必要。 ・地区で料理教室を実施している。多世代交流イベントはもっと充実させるべき。お互いの顔が見える場面を増やしたい。 ・保育付きのイベントは参加しやすい。短時間でも子どもと離れてゆっくりしたい。←保育者を用意するにも謝礼金がかかる。 ・結婚で地区外から移ってくるお母さんが多く、忙しいのか集まりに続けて参加してもらえない。 ・老人クラブが小学校と合同で輪投げ大会を開催。また、作品展に保育園児からも参加してもらった。 ・普段、地域のお年寄りとお会いする機会がない。行事などで顔を覚えたい。←地域の茶の間で子どもと交流しているところがある。お互いの顔が分かれば声もかけやすくなる。 ・地域の子ども会に保護者以外の大人がかかわるのはよい。 ・お年寄りの知識・技術を若いお母さんに伝えたい。 ・「子育てオーエンジャーみなみ」ががんばっている。メンバーの研修・スキルアップが今後も必要で、区づくり予算終了後も継続して支援してほしい。←地区によってはコミ協事業として継続。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代は回覧板を見ない。(そもそも興味がない、勝手に回される) ・同じ地域・境遇の人が声をかけ合うのがベスト。そのためにどうすべきか？ ・身近な人の状況が分からない。 ・全くのボランティアが主体になって動くのは難しい。

② ①の課題を解決するための活動主体及び取り組み・方向性

主体	取り組み・方向性
地域住民・団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・納涼会で仲間ができた。 ・味方地区では「自学応援隊」(地域のボランティアが小学生の自主学習を支援)を実施。子どもの状況がよくなれば地域は活性化する。南区全体に広げられないか？ → 中高生・大学生の地域参加にもつながる。勉強だけでなく、レクリエーションも入れれば集まりやすいのでは。 ・新しく何かを始めるのではなく、今あるものを結び付けて発展させる。(土橋先生の講話)
社協・福祉事業者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの確保の仕方が分からない。←コーディネーターに相談を。 ・ファミサポが全市に制度拡大した結果、研修の受講が必須となって減少した提供者を増やす。
行政(区役所)	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の自主的活動を区が継続して応援してほしい。 ・ボランティアを募るにもお金が必要。区に支援してほしい。

③ 目標(細目)の再設定

現計画(福祉分野別地域福祉活動計画)における目標(細目)	次期計画における目標(細目)(案)
<ul style="list-style-type: none"> ◎地域, 家庭, 父親が参画する子育て ◎子育て支援ボランティア活動の活発な地域に ◎子育て世帯を地域住民の力で支える ◎子育て世帯の話を地域が聞くような関係を築く 	

④ 目標(標題)の再設定

次期計画における目標(標題)	

現計画における 目標(標題)	福祉分野別地域福祉活動計画	—
	地域福祉計画	子育て支援

① 第1回分科会で挙げられた目標達成度合い・現状・課題及びその要因

達成度・現状・課題	要因
<ul style="list-style-type: none"> ・1年未満で復職するお母さんが多いが、年度途中での保育園入園が難しい。園によっては未満児が満員状態。 ・希望の保育園に入れず、就労を諦めたという話を聞く。 ・児童館、子育て支援センターなど、それぞれの施設がどんなところなのか行ってみたいと分からない。 ・園開放は日数が限られ、都合が合わないと行けない。もっと頻繁にあれば。 ・児童館は小中学生と共存するため、お互い気を遣う。 ・幼稚園が区内に1か所しかなく、他区の園を探さなければならぬ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親としては0・1歳児を年度途中で保育園に入れて復職したい。一度退職すると正社員に戻れない社会的な風潮がある。 → 有資格の保育士の確保が難しい。

② ①の課題を解決するための活動主体及び取り組み・方向性

主体	取り組み・方向性
地域住民・団体等	
社協・福祉事業者等	
行政(区役所)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の園開放は、連絡があればいつでも対応する。 ・子どもの児童館までの交通手段(送迎バス等)を確保してほしい。 → 高学年になると、授業が終わってから児童館に行く時間がない(一旦家に帰ってから行かなければならない)。 ・施設までの経路の歩道や自転車専用レーンを整備してほしい。

③ 目標(細目)の再設定

現計画(福祉分野別地域福祉活動計画)における目標(細目)	次期計画における目標(細目)(案)
—	

④ 目標(標題)の再設定

次期計画における 目標(標題)	
--------------------	--